

さいたま市立東岩槻小学校 学校だより 3月号



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和6年3月1日(金)
第13号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数146名
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

成長を願う

校長 渋谷 恵子

校長室前の廊下にある君子蘭が美しいオレンジ色の花を咲かせています。校庭の花木も少しずつ色付き始め、春の装いになってきました。3月、今年度最終の月となりました。

さて2月から、6年生が卒業に向けて様々な取組をしています。題して「卒業プロジェクト」。その一つである「校長との会食プロジェクト」が2月19日から始まりました。会食では、普段の家庭での過ごし方等を聞かせてもらい、意外な一面を知ることもありとても楽しい時間でした。その中で、「小学生の時に一番がんばったこと」については、全員に話してもらいました。6年生は、どんなことを頑張ったのか。まず、各委員会の委員や実行委員としての取組です。業間や昼休みは打合せのため忙しかったり、思うように進まずに苦勞をしたりしたこともあったけれど、自分たちで考えたこと、こうしたいと思ったことが形になり、やり遂げたときの達成感を思い出し、話す顔には満足した表情が見られました。学校や仲間のために頑張ったという思いも聞きました。また、友達をつくること、人にやさしくすることと答えた児童もいました。会食中の様子を見てみると、同じ空間に居るのが当たり前になっている、6年間を共に過ごしてきた仲間との絆の深さを感じました。そして一番多かったのは「勉強」でした。得意なことではなく、分からない、苦手、悔しい思いをした・・・だからできるようになるために頑張った、のだそうです。苦しかったけど、分かるようになりたくて頑張ったという話には、胸が熱くなりました。どの児童も、よりよくなりたいという強い思いが原動力になり、頑張り続けたのだと思います。卒業を目前にした6年生の姿は、本当に頼もしく、着実に成長していることを実感しています。

もちろん下級生も負けてはいません。本日開かれる6年生を送る会では、1～5年生の児童たちが6年生への感謝の気持ちを込めて出し物を披露しますが、準備をしている姿を見てみると「私たちはここまで成長しました。これからは私たちに任せてください。」という心の声が聞こえてくるようです。

～若竹の 伸びゆくごとく 子ども等よ 眞直ぐにのばせ 身をたましひを～

宮崎県出身の歌人、若山牧水が詠んだ短歌です。(歌集「黒松」より)児童たちには、こうありたいという思いを実現させるために、心も身体も眞っ直ぐに成長してほしいと心から願っています。

1カ月後には、新年度がスタートします。児童たちは、成長した自分を土台とし、さらに次のステップに進もうと動き始めています。本校も、新年度に向けて、次のステージへ進むべく準備を進めているところです。改めて保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に対するご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。令和6年度も引き続き変わらぬご支援をお願い申し上げます。